

萬國新聞紙 第二

慶應四年戊辰五月

西垣文庫 特
文庫10
7371



特 文庫10
7371

萬國新聞紙第二



大英國史

英國教師
ベリ先生編



紀元六百七十一年より九百一十年迄
日本貞觀十三年より延喜元年迄

アルフレッド其臣下我愛し防ぎ守り敵と烈しく戦へども最初の臣下あまを喜ぶは全く王の大勞を志しざり故ちり「アルフレッド大に怒り獵るるこゝろや遊ぶを好む者を賤しやりて人民多くハ王を見捨て「テニス」に從ふ者スハ

他國へ出奔せり「アルフレツド」是非なく貪民の
形ち、身をやつゝ豕を養ふ人の小屋に逃入豕
ういの眷属の如くして日を送まり豕ういの
妻思ひをうひ以人のテニス捕へらる夫上
に逃出したる兵士ちうんと或日「アルフレツド」
火の側小座し弓矢を作て居りしが此家の妻餅
鉄きううのをアルフレツド共餅の焼くをね
りし氣と舟具しと頼こ置出行たり「アルフレツ
ド」固く請合獨坐し自分の因を悪逆ちうテトシ

スの為、崩ききし始末を考へ餅の燃る我忘れ
やぐ其家の妻故り餅如何ちうやとを思
の外餅いくをぶてらる故大ひこ怒りて去こ
い汝毎々我焼しとち我遠慮ちう食ちう其餅
を焼くも出来ぬ程の不性奴ちうちうて大い
謗まら然らふ其後此妻彼のアルフレツド王を
う夏を知り彼を可りしおとを悔しとぞ「アル
フレツド」の笑ひ夫婦の者、去々ちう我汝等の
為、危きを救こしう以恩交して忘しがく

○此の後のアルフレツドの共民無事を賤し
を彼等を賢くかさんとせり且我心穏順ちん
を自ら勉めて學べり春最り此王次第
其忠臣を集めアルフレツトシヤイル名地のエセ
ルニ」と云処に皆住せり「セルニ」の地此頃
の森のちる小き島あり「爰」に王屢デーン
ス襲へり「デーン」スのアルフレツド死せり又
他國へ逃去しちんと思ふ故襲ふ者つぎきよ
に來るを知り「ウエツセツクス」の民に其

王を見捨しを甚だ悔アルフレツトの彼等の歎
く我圃「デーン」スを追出きん「の」彼等我を助
んと思ひ私に手紙を「ウエツセツクス」の長
者に送り其民甲冑着し來る「を」命ぞり「ア
ルフレツド」の「デーン」スを襲う前彼が陣營のよ
ふを我らんと思ひ樂人「の」身をやつし琴を手
持敵の中へ入込り敵樂を好し「故」彼が氣尽
出入をゆり又種々の物をもち其をゆ
り「此」樂人を疑はざり「アルフレツド」

敵をテレンスを襲い大勝利を得たり此敵人
 を朋友となさしめん其長をその小
 友にテレン神を拜するを止んと説きしめて
 英國の東の方を住居とし平穩に居り北部に佳
 き一數多のテレンス此皆アルフレツドに從
 ぐい遂に英國の穩にちりタルスメンル二三
 度大軍を卒して來しども此賢き王の為に追
 きたり此王善船を造るを其民に教へ海岸を
 守らし敵近辺に來るを防ぐアルフレツドの

死する或は其旗をくして船百艘あり英人航海
 するを學び得て外國と交易を始り此王ハ
 民の爲に數多善事をあしり航海の道を教へ英
 國に民賢く幸いふきん其を日夜勉めてあり
 き國法并に正しむ裁判人を民に下し要用あり
 其を奪ふしよをげし太切なり其を書き
 校を建て賢き人を索し出して師となし此
 の間アルフレツド烈しく痛病の爲にちり
 日々ふおと後へちをとも天に助きを請死する

追働きしと此王ハ其子エドワードツゼエルドル
ノ職を譲りて九百一年小死せり

蒸氣船燈の規則

帆前船並蒸氣船の支

帆前船及び蒸氣船互以小突當るべき向方にて
走る時ハ蒸氣船帆前船兩道を退くべし
第十六 蒸氣船其早さ浅遅くする支
蒸氣船他船小近よる突當らんとする時ハ其早

さ浅おそくする支
余儀ちよる時ハ止て後を向
ぎしつづきの蒸氣船にてハ霧降取ハ中等の早
きしつづき走る支

一船他船小追舟支

一船他船小追舟時ハ其先の船れ道ヲ出べく
第十二十四二十五及び二十七ヶ條ヲ付

ては事

右の規則しつづき兩船の一ツ他の者の道を通らば
しつづきの条ヲ随ハ他の者の其道を保つべし

非常の場合に於て危き或逃る或
 右の規則に随ひ危き或は逃る或は
 義者たる場合に於ては急ぎ或は逃る或は
 間ふ右の規則に違ふ或は或は如き場合に
 配意を乞ふ

毎々當前の用意をおこころ

或は或は或は或は

燈しびを掲ぐるの情に或は或は或は
 情に或は或は或は或は或は或は或は
 情に或は或は或は或は或は或は或は

或は或の情に或は或は或は

此新聞中ふ亞医りの引札有りハア
 リカ及び合衆國に於て数多の病人を取扱は
 たりつて大に熟達し當國に來りハ近比也
 とソレども直に日本人の博く知所とちん可
 日本藥料を外國人未だ精しく知ざるを大
 十年前より當國に滯留の醫師未だ見出さる
 藥草を見出さる是粘魚頭の類の英名サルサベ

リルラ。康名カツサペルラと云也。此草ハ當港
の近辺ニ數多アリ多分ハ諸所ニアリ人若此
御一見チキ度御方々ハ百一番ベリ方へ
御出可被成候。此迄日本人此草の汁を外国人ト
り高金出して買ハガ。此草日本ニ數多アリ故
れより買ふニ不及却て外国人ニ是れ買ふ
ちラズ。此一品を見出キ一のこもて日本人
ハは大ハチリ利益ト云々。又當國ニおる
ハ交易の品ニちラズ。薬中數多あるベリリ

の如キ性質の人ハ日本人の爲ニは寶ニ愛ス
キ人チリリ日本人の爲ニ要用ナラズ。其心實
ニ種々此新聞紙中ニ加ヘリ。先其中ニ弟一の
事ハ日本人十人の内六七人疥癬を病ニ是を防
グ。法料治の仕方等左ニ記ス

疥癬治療之法報告

此病ハ皮膚の間のこみ。て内身ニ入ラズ。稀
チ。然レども血液不潔ナラズ。其根元ハ小虫の皮
身ニ入。其根元ハ小虫の皮

層々食入るゆくちり或人見微鏡にて此虫を
 一其形ちふちる甚一短髪全身を蓋ひ口の
 大以ちら事恐ろしく八脚あり進退是又速る
 り脚の先吸付そのり是にて其食入一穴
 吸付是を離さむる甚ぶく眼ちけまど
 小難を受んとさるとまの亀の如くたちまち頭
 八脚ともふ皆ちどり卵の通常十六宛産日数
 凡十日斗りてくる増甚ぶ速ちり爰
 此無血虫の形ちを畫さる所ハ五百倍大まくと

一知ちり

○此種物の右記せ

虫のまふして其場処ハ

通例薄き皮の湿いまき

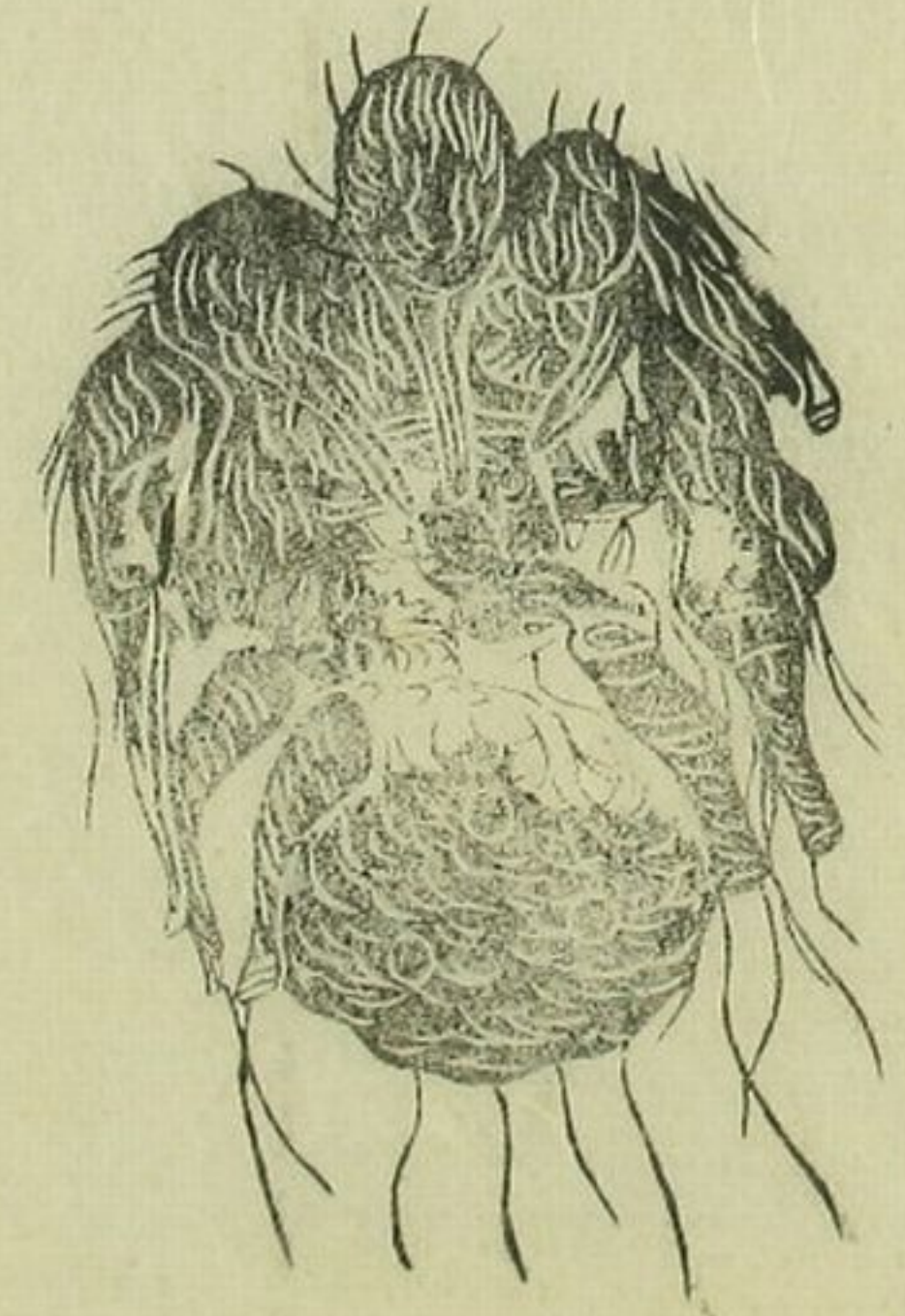
所生む血液不潔ちる

とまの彼らの食物となるもの

多く又癩癧の病にちる者ハ全身に廣まるや

ルすれバ腸胃肝臓に及ぶ昔此病ハを名付

て七年疾癩と去ハ烈しくちるも又愈小遅く



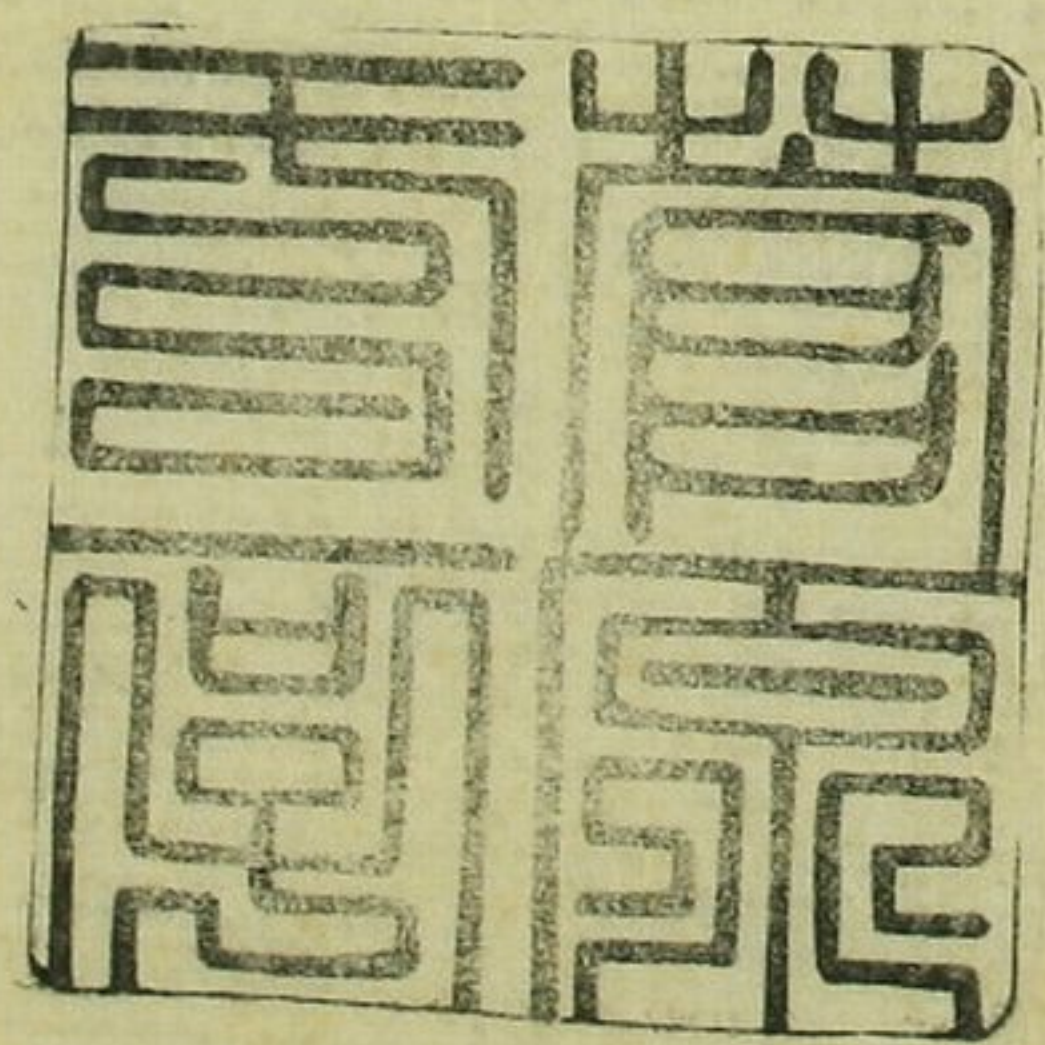
九七年の間も煩はし一処を以てかく名付したり
 然とも是れ誤りたり血液を全く純粋にたらしむ
 とすむば新らしき血液を以て以前の血液より
 へしむる丈の分量を要すとすむばこのごとく
 血液を變ぜしむるは七ヶ年の間より教へら
 らば○大馬の如き獸より此病はありて人より傳
 染する時の種物のうち通例とす大に異な
 る此人の皮膚の獸より細らるるゆへたり又
 此病はあら者一処よりゆへたり其者の体を

とすむるは傳染する変り此病は洗湯の
 如く互に体をふき合ふこと致止めんば治し
 ぐくヨウロツバ人の治し方血液を純粋に
 ちん変ちしむる医者了簡より種々あり
 脈の血液の悪きを直ちより故に其働きをば
 する薬を用ゆるを最上とす又食物のちふたり
 とも同品を食ふは他品よりよりとす
 魚の食すぐく魚を毎日食ふは人の生の

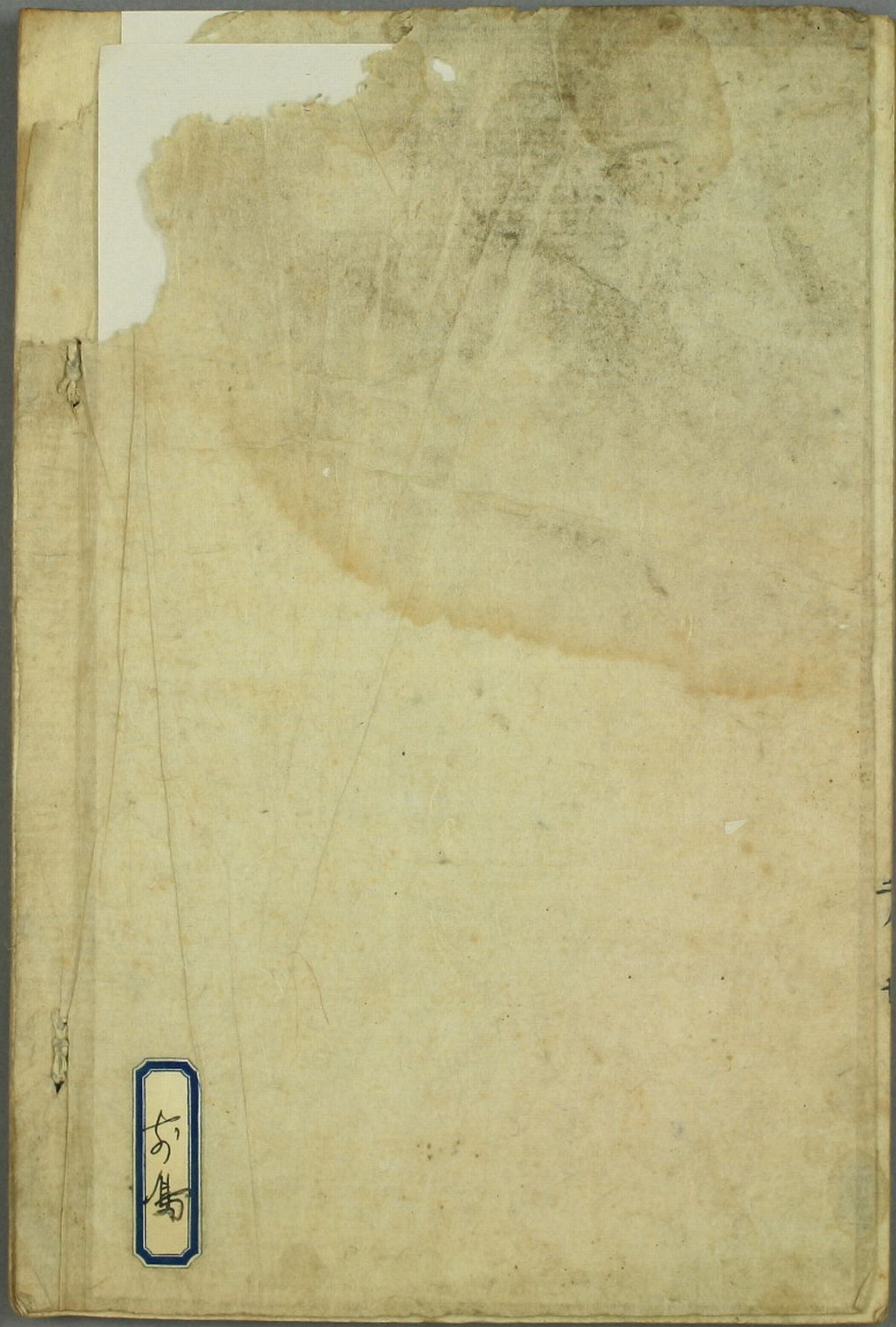
肉をくく飯のやろく小麦の粉を替へーサルサ
ペリラステリンヂヤ木の出るコリダリス「フオルモ
カツサフラス「イエルロードツク「ボルンドツク
血液を純粋にするには最もよく薬品より日
本より多く生ずれども其日本名を未だ知らぬ以
て煎じろく日本人の煎茶よりよくあつて
一日三度ツ、飲バ数度腹を下に一時薬を止
又始めて服を下を此ごとくすば四五ヶ月の
内血液等大に变化すべし之の疾癩のその

他の者を一処に水を入るべくくば又屢入湯
をぐく後隔日小躰を洗ハアルカリ汁塩の多く
入るる「シヤボニを用い速く洗ハ湯ハ成丈暑く
まるをとりと入湯の後并々朝夕の種物の所
を「アリス木の名くいのの根の皮を煎じ「パイント三三
タ子又「コシヨウ」を茶七よ一をハ「ウオシンドリ
「ダ半「フニ重余り「硫黄半「フニ交合せて
よく飛入てより海綿の切くく自べし
此おとくくれば大概の疾癩の治をききどりの躰

新張堂



一面之生トてりる人ハ宜ク其醫師を呼べ



お鳥